オールマイティーチャー配置事業 Part5

本事業は、各学校の課題に応じて、子どもたち一人一人に応じたきめ細かな教育活動を推進するため、教員（オールマイティーチャー）を川越市独自に採用し、配置するものです。川越市では、他市に先駆けた事業として実施して、今年で4年目。現在、小・中学校合わせて14校に14名を配置しています。

高階西中学校の 長井　正邦 校長に活用状況を伺いました

Q　今年度、高階西中学校が取り組むべき学校課題とは何ですか。

A　本校は、「生徒一人一人のよさを生かし、一人一人を確実に成長させる教育」を推進しています。

そのためには、生徒一人一人に対する共感的理解に基づいた生徒指導の推進と、問題行動の予防や解決を図るための指導体制の確立が喫緊の課題です。

Q　オールマイティーチャー配置により、どのような効果があるとお考えですか。

A　オールマイティーチャーの配置によって生徒指導体制が充実することにより、生徒一人一人に対する理解が深まります。そのうえで、生徒指導主任が校長の方針のもと、連絡・調整及び指導・助言を行うことで、組織を適切に機能させることができると考えています。

Q　オールマイティーチャーをどのように活用していますか。

A　オールマイティーチャーが、生徒指導主任となっている教員の授業（理科）の一部を担当します。このことにより、課題の解決に向け、生徒指導主任を中心とした迅速かつ組織的な対応を一層推進することができます。

また、理科の授業では、観察や実験を充実させたり、ティームティーチングを行ったりすることができ、生徒の興味・関心をさらに高めることができると感じています。

Q　今後のオールマイティーチャー配置事業に期待することは。

A　配置されたオールマイティーチャーを、学校の実態や課題に応じて活用することができることは極めて有効であると実感しています。

今後は、同一校複数配置や市内全校配置など、事業の一層の充実を期待しています。

平成29年9月から新しい学校給食センターが稼働

現在、川越市では市内小・中・特別支援学校に1日約2万8千食の給食を、菅間・今成・藤間・吉田の4つの学校給食センターから提供しています。このうち、藤間及び吉田学校給食センターは老朽化が進んでいることや、今成学校給食センターでは1日2回の調理を行っており、この二つの問題を解消するため、（仮称）川越市新学校給食センターの工事を進めているところです。

（仮称）川越市新学校給食センターは、①確実な衛生管理で安全・安心でおいしい給食の提供ができる施設、②川越産農産物のさらなる活用と食育啓発に貢献できる施設、③環境負荷低減に配慮した施設、④災害時に対応する施設、⑤効率的・効果的な事業が実施される施設の5項目を基本理念として掲げており、PFI（※）方式にて事業を進めています。

事業者は主に施設の設計・建設・維持管理・運営業務を担いますが、これらの中で献立の作成・食材の調達及び検収・給食費の管理・食育事業等は市が責任をもって実施します。

皆様のご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

学校給食課…TEL223-6035

事業者	株式会社川越学校給食サービス（特別目的会社） 代表企業　株式会社東洋食品
建設地	川越市大字菅間字石橋18番地1
施設概要	鉄骨造　地上2階建て 提供食数　1日あたり約12,000食（内、アレルギー対応食最大260食 ※平成30年度から提供開始予定）
配送する小学校	新宿小、高階小、高階南小、高階北小、高階西小、福原小、霞ケ関小、霞ケ関南小、霞ケ関北小、霞ケ関西小、川越西小、名細小
配送する中学校 特別支援学校	初雁中、芳野中、東中、南古谷中、高階西中、砂中、山田中、城南中、高階中、寺尾中、福原中、特別支援学校

※PFIとは、民間の資金・経営能力及び技術的能力等を活用して行う手法で、事業費コストの削減や、質の高い公共サービスの提供を図ろうとするものです。また、本施設は民間事業者が建設した後、市に所有権を移転し、民間事業者が維持管理及び運営を行う事業方式を取り入れています。

教職員が主体的に学ぶ「教育フェスタKAWAGOE」

川越市では、教育の充実のために、教職員の資質・能力の向上を目指して、学校や教職員等の優れた実践や研究の成果を広く発信する場、一人ひとりの教職員が主体的に学ぶ場として、「教育フェスタKAWAGOE」を平成27年度から開催しています。

今年度は、平成28年8月8日（月）、川越市立教育センターで、第2回教育フェスタKAWAGOEが開催されました。「インタラクティブ（双方向）」をテーマに、26講座が設けられ約500人の教職員が参加しました。

大学の先生による講演会

模擬授業の体験

優れた実践の発信や模擬授業、実験や体験などで発表者と参加者が自主的に学び合ったり、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に関する講演では真剣に聴き入ったりしていました。指導方法や最新の教育情報を知りたい、理解を深めたいという教職員の意欲があふれる研修会となりました。子どもたちの深い学びの場を目指す教職員にとって充実した時間になりました。

川越市マスコットキャラクター
ときも

博物館出前授業　～博物館資料を通して近世の川越について学ぶ～

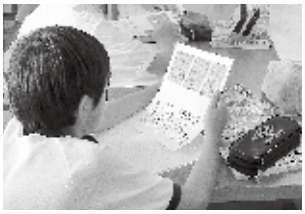
博物館では希望する小中学校へ資料をもって訪問する「出前授業」を行っています。その中から7月に名細中学校で行われた授業についてご紹介します。

授業は博物館利用研究委員会の先生が、積極的に人材や資料を活用するために計画しました。授業では近世（江戸時代）のまとめとして「近世の川越はどうだったのか」について学習しました。

いつもの挨拶の後に学芸員が自己紹介。今日はいつもと違うぞという期待感が教室に漂います。授業の中で子ども達は、江戸時代の川越にはたくさんの寺子屋があったこと、算額（※）が奉納されていたこと、あの伊能忠敬が学区を歩いていたことなどを資料を見ながら学びました。

そして最後の資料として「女大学」という寺子屋で使われた教科書を読んで感想を話し合いました。

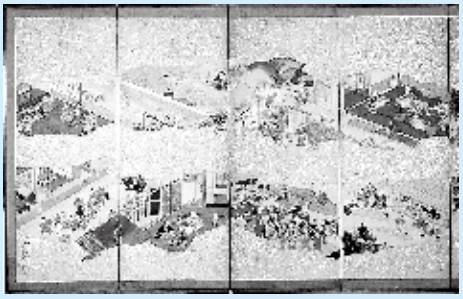
現代とは違う価値観で書かれた書物に対して、共感できるかできないか話し合うことで、当時の様子について理解を深めていました。



※算額とは、和算家が解いた数学の問題を額に記して神社仏閣に奉納したものです。

第43回企画展　開催中
「城下町川越の町人世界」
10月8日(土)～11月23日(水・祝)

市立博物館では、川越藩17万石の城下町として栄えた川越町人について企画展を開催中です。今回の展示会では、川越町十か町の一つ高沢町の名主を勤めた井上氏が描いた「川越の四季屏風」や、氷川祭礼（現在の川越まつり）の山車が描かれた「氷川祭礼絵馬」などの資料から、川越町人の社会や生活を探ります。



川越の四季屏風（井上誠一郎氏蔵）

川越市立博物館　TEL 222-5399